

食の安全 「基本のお話」

第64回

遺伝子組換え食品について



「遺伝子組換え作物で、アメリカで実害（甲状腺がん、アレルギー、糖尿病、自閉症、不妊、出生障害）が急増」と聞きましたが、本当ですか。



現在、遺伝子組換え食品による健康被害や子孫への影響の報告例はありません。



1. 遺伝子組換え食品は、食品安全委員会ですべての安全性が確認されたものしか流通できないようになっています。

遺伝子組換え食品も、食品添加物や残留農薬と同じように、食品安全行政のもとでリスク管理

されています（安全性評価が行われ、問題ないものしか流通できないようにしている）。販売が始まってから20年以上経っていますが、問題は発見されていません。



2. 世界保健機構（WHO）の見解

「遺伝子組換え食品が承認されている国々では、人の健康に及ぼす影響は確認されていない」

3. 「害がないことを明らかにした査読付き科学研究」は2015年現在650件

※小島正美（編）「誤解だらけの遺伝子組換え作物」より
※査読とは、同分野の専門家による評価や検証のこと

2005年ロシアでの「遺伝子組換え大豆でネズミの子どもの死亡率が上昇」、2012年フランスでの「遺伝子組換えトウモロコシでネズミのガンの発症率が上昇」などの報告は、すでに公的機関によって否定されています。

英国の著名な環境保護運動家
マーク・ライナス氏の謝罪



かつて欧州の反遺伝子組換え運動をけん引してきたマーク・ライナス氏が、2013年、イギリスの学会で、これまでの反遺伝子組換え運動を謝罪し、組換え技術は持続可能な農業に重要という講演を行い、世界の注目を集めました。

ライナス氏のスピーチの冒頭

「過去数年にわたって遺伝子組換え作物を誹謗する行動をとってきたことについて、謝罪したい。環境保護家として、また、世界の一人ひとり健康で栄養に富んだ食事を摂る権利があると信じる者の一人として、私は、これまでの行動を心から後悔している。

何が私の信念を変えさせたのか。それは、私が『科学』を発見したからです」

4. 食の安全に関するさまざまな情報が氾濫しています。

不確かな情報に惑わされず、科学的知見にもとづいた正確な情報入手することが重要と言えます。